



トランスジェンダー当事者学生への 配慮のお願い

本リーフレットについて

本リーフレットを制作する青山学院大学附置スクリーンメーカー記念ジェンダー研究センターは、青山学院及び社会におけるジェンダー平等と性の多様性の尊重の推進を目的として、日々、活動を展開しております。

本センターには、学生からジェンダーに関する問合せや相談が寄せられることも多くあるのですが、**昨今、講義中に教員がトランスジェンダー差別／排除的な発言をしているという相談が含まれるようになりました。**

教育機関においてトランスジェンダー差別／排除に歯止めをかけ、学生を守るためには、ひとりひとりの教員が適切な知識を持ち、講義中は発言に配慮するとともに、学生に対しても適切な理解を促すような教育の機会を提供することが必要不可欠であるといえます。

本リーフレットは、本学に在学するあらゆる学生が安心・安全に学修できる環境整備の一助となることを願い、制作いたしました。

教員の皆様におかれましては、**適宜ご参照いただき、適切な配慮と教育の機会を提供できるよう、ご理解とお力添えのほどをお願いいたします。**

トランスジェンダーを知る

トランスジェンダーとは、出生時に割り当てられた性別と、その後成長するにしたがって形成された性別に関するアイデンティティ（性自認／性同一性／ジェンダーアイデンティティなどといいます。）が一致していない、あるいはしっくりとこないといった人を指す言葉です。

出生時に割り当てられた性別とは（男女を二元的に捉えた場合の）反対の性別のアイデンティティを持つ人もいれば、「性別は男女のどちらかである」という二元的な枠におさまらないアイデンティティを形成する人もいます。後者についてはノンバイナリー（またはXジェンダー）と呼ばれます（なお、ノンバイナリーの人のうち、自身をトランスジェンダーにカテゴライズしていない人もたくさんいます）。

ほかにも、自分の性自認が分からない、あるいは決めたくないと感じるクエスチョニング、2つ以上の性自認を持つバイジェンダー、性自認が流動的であるジェンダーフルイドなど、さまざまなあり方が存在します。

（参考：反トランス差別ZINE編集部『反トランス差別ZINE－われらはすでに共にある』2022年）



シスジェンダー
生まれたときの性別と
性自認が一致する



ノンバイナリー
「男か女のどちらか」という
二元的な枠に当てはまらない



トランスジェンダー
生まれたときの性別と
性自認が一致しない



クエスチョニング
自分の性自認が
分からない、決めたくない

Q トランスジェンダーとは
異性になりたい人のことですか？

A 当事者によって感覚はさまざまですが、基本的に、トランスジェンダーは出生時に割り当てられた性別以外に「になりたい」のではなく、出生時に割り当てられた性別以外で「ある」ために、その性別として生きたいと望んでいる（あるいは実際にそう生きている）との説明がより適切といえます。



Q トランスジェンダーは
みんな性別を変更するのですか？

A 性別移行の方法の中に、医学的な性別移行（ホルモン療法や性別適合手術）や法律上の性別移行（日本では戸籍上の性別の変更手続）がありますが、すべての当事者がこれらの方法での性別移行を望むわけではありません。また、望んだとしても、さまざまなハードルによって実現できないケースも多いです。

医学的な性別移行にかかわるハードル

- ・ 対応する医療機関が少なく保険適用も難しい
- ・ 家族や会社の理解が無いと難しい場合がある
- ・ 身体への侵襲性が高く負担が強い
- etc...

法律上の性別移行にかかわるハードル

- ・ 成人していなくてはいけない
- ・ 独身でなくてはいけない
- ・ 未成年の子がいてはいけない
- etc...

Q

性自認を尊重しすぎると
トラブルが起きませんか？

A

「性自認を尊重すると、男性器のあるトランスジェンダー女性が女性用スペースに入ってくるようになる (①)」、「性犯罪目的で女性用スペースに侵入してもトランスジェンダーを名乗るだけで無罪放免となる (②)」、「侵入者との区別がつかないから、トランスジェンダー女性は女性用スペースを利用すべきではない (③)」などの主張が一部で見受けられますが、これらが偏見や誤解に基づいていることには注意が必要です。

①については、実際、当事者は自らの性別移行の段階に応じて慎重にスペースを使い分けています。また、脱衣を伴う公衆浴場などに関しては、身体的な特徴で区分がされており、当事者もこのことに異を唱えているわけではありません。②については、**性犯罪は誰が行っても処罰されるものですので、トランスジェンダーだと主張しても罪を逃れられるわけではありません。**③についても、①や②で述べたような事実がある限り、主張する根拠がありません。

性自認の尊重をめぐる「当事者たちが引き起こす (とされている) 問題」ばかりが議論の対象となります。しかし実際は、トランスジェンダーはスケープゴートとされているのが事実であり、「**社会が当事者に対して引き起こす問題 (メンタルヘルスの問題、性暴力被害の問題、差別の問題など)**」こそを社会全体で考えていくことが必要です。

配慮するために

このような言動には注意

アウティング

本人の性のあり方について、本人の同意なく第三者に暴露する行為を指します。性のあり方とはとてもセンシティブな情報であり、誰に公表する／しないについては、個人の決定が尊重されるべきです。

業務上、当事者学生の性のあり方に関する情報を共有することが必須な場合においても、必ず本人の同意を得ましょう。なお、公表することを強要したり、逆に制限したりすることもまた、許容されません。

ミスジェンダリング

その人が自認する性とは異なる取り扱いをすることを指します。例えば、トランスジェンダー女性に対するミスジェンダリングの場合、講義で「he」、「彼」、「〇〇君」と呼ぶ、本人の性別移行の段階にかかわらず男性用の更衣室やトイレの利用しか認めない、グループ分けなどの際に男性として扱う、「やっぱり手の大きさは男だね」、「別に男のままスカートやピンクが好きでもいいんだよ」などと言う、などが挙げられます。



どの学生がトランスジェンダー当事者であるかは、見た目や服装では判断できません。講義内に当事者であることを公表している学生がいなくても、適宜、発言等に配慮をしていただきますようお願いいたします。

コラム：トランスジェンダーとメンタルヘルスの問題

トランスジェンダーがマイノリティであるこの社会では、ほとんどの当事者たちが深刻な生きづらさを抱えており、メンタルヘルスが損なわれやすい状況にあります。アメリカでトランスジェンダー当事者を対象に行われた調査*では、以下のような結果が明らかになっています。

回答者のうち：

- 44%が直近で深刻な心理的苦痛を経験している
- 30%が過去1年で言葉によるハラスメントを受けている
- 39%が過去1年でオンライン上のハラスメントを受けている
- 73%が必要時に警察に頼ることが難しいと考えている
- 80%の成人が学校でのいじめやハラスメントを経験している
- 30%がホームレス状態を経験している
- 18%が失業状態にある

*James, S.E., Herman, J.L., Durso, L.E., & Heng-Lehtinen, R. (2024). Early Insights: A Report of the 2022 U.S. Transgender Survey. National Center for Transgender Equality, Washington, DC.



問い合わせ先

青山学院大学附置スクーンメーカー記念 ジェンダー研究センター

150-8366

渋谷区渋谷4-4-25 青山学院大学 短大研究棟1階

開室時間：授業実施日（土曜日を除く）10:00-18:00

TEL：03-3409-9554

MAIL：agu-smcgs@aoyamagakuin.jp